

兵庫県立但馬やまびこの郷主催
令和2年度 不登校に関する研修会

これからの中学生支援のあり方
—全ての子どもを支える
ソーシャル・ボンドについて考える—

令和2年8月11日(火)

前兵庫教育大学大学院学校教育学研究科
特任教授 池島徳大
(元奈良教育大学大学院教授)
Ph.D.(学校教育学)
元臨床心理士・学校心理士SV
日本ピア・サポート学会会長

1

不登校対応のポイント

- (1)不登校問題は、進路（生き方）問題である。
・心の問題だけととらえないで、広く「進路問題」ととらえ、学校教育の特質をふまえ、心理面へのアプローチだけでなく、社会面、学習面、進路面、健康面からのチーム支援を行う。
- (2)子どもももっている援助資源を活用し、リレーションズづくりを中心とした、予防的・開発的生徒指導を進める。
・子どもを学級(学校)につなぎとめるソーシャルボンド(関係の束)を強めるため、集団を質のよい集団に改善し、学校適応感を高める。
- (3)子ども、保護者の願いや戸惑いを受け止め、がんばりを支える。
・二次的問題の発生を阻止し、安心して自分の言い分を表現できる居心地のよい場を提供し、信頼されているという関係性(絆)をつくる。家庭・学校・相談機関等と、何で繋がるかを模索した上で、「チーム支援」を行い、環境調整を図る。
- (4)不登校になることは悪ではない。
- (5)Trial & Error

2

キーワード

安心・表現・絆の形成

心の扉をひらくマスターキーとは何か
()

人として成長しようとする原動力は、自分は愛され、認められないと実感し確信を得ることである。

3

The diagram illustrates the process of recovery from truancy, divided into three stages:

- 初期段階 (Initial Response):** Shows a child who has stopped coming to school due to various reasons like family issues or social problems. The response involves identifying the problem and addressing it directly.
- 中間段階 (Middle Stage):** Shows the child beginning to re-engage with school. The response involves providing support and encouragement, and addressing underlying emotional issues.
- 最終段階 (Final Response):** Shows the child fully integrated back into school life. The response involves long-term support and ensuring the child feels safe and valued.

4

心の扉を開ける3つのプロセス

—良好な関係をつくるために—

- 第1段階 ワンネス (One-ness)**
響く。相手の身になろうとする
「わかる」とする
ワンダウンポジション・尊重
判断保留(epoche)
- 第2段階 ウィネス (We-ness)**
支える。相手の役に立つことを一緒に考えようと
提案する態度
- 第3段階 アイネス (I-ness)**
自分の気持ちと自分の考え方を打ち出す
こちら側の伝えるべきことを伝える

Moustakas' model of relationship (1995)

5

演習1

A君が、登校してきたとき、「先生、5時間目にある算数の宿題、やってくるのを忘れました」と言いにきました。

- 第1段階 ワンネス (One-ness)**
「よく言いにきたなあ」
「君が宿題を忘れるなんて、どうかしたのかな？」
- 第2段階 ウィネス (We-ness)**
「5時間目までにできることは、どんなことがある？」
「私に手伝ってほしいことは何かあるかな？」
- 第3段階 アイネス (I-ness)**
「今日はきちんと言いにきてくれて(先生は)えらいと思ったよ」
(ポジティブな自己開示)
「明日からは、わすれないきちんとやってくるんだよ」(自己主張)
「わからないところがあつたら、いつでも尋ねていいよ」(自己主張)

参考：米田(2007)

6

1

日常的によくある応答

—順序が逆になっている—

・第3段階 アイネス(I-ness)

「ダメじゃないか！ほんとにもう！」(ある意味、自己開示)
「宿題をしてくることはきみにとっては最も大事な仕事なんだぞ」(自己主張)

「先生は、きみの将来のことを心配して言っているんだ」(自己主張)

・第2段階 ウィネス(We-ness)

「で、これからどうするんだ。えっ！」

「するの？しないの？」

・第1段階 ワンネス(One-ness)

「今日はどうしたんだ？タベ体調が悪かったのかい？」

参考：米田（2007）

7

演習2

「先生、教室のガラスを割ってしまいました」と
言ってきた小学生

・第1段階 ワンネス(One-ness)

・第2段階 ウィネス(We-ness)

・第3段階 アイネス(I-ness)

8

グッド・シェファード・ルーテル学校

(Good Shepherd Lutheran School, Australia 2013)



<学習指導>

算数ができない子には、算数を教える。
本読みができない子には、読み方を教える。

ところが

<行動がうまくできない子には>

これまで私たちは、()を与えてきた。

<しかし今、行動がうまくできない子には>

「 」という方法をとっている。

9

すてきな頼み方①

(例) 消しゴムを忘れてしまったので、隣の席の友だちに消しゴムを貸して欲しいと頼みました。

(1) 相手の名前を呼ぶ。(○○さん)

(2) 相手の都合を聞く。(今、ちょっといい？)

(3) 頼みごとの内容を言う。(消しゴム貸してほしいんだけど)

(4) 頼みごとの理由を言う。(消しゴム忘れてしまったので)

○相手が「うん、いいよ。」と言って貸してくれました。

(5) 相手にお礼を言う。(ありがとう)



10

納得のいく断り方②

(例) 消しゴムを忘れてしまったので、隣の席の友だちに消しゴムを貸して欲しいと頼みました。

<納得のいかない断り方>

(1) あやまらない

(2) 断る理由を言わない

「イヤ！」「だめ！」「…(無視)」



<納得のいく断り方>

(1) 相手にあやまる(ごめんね)

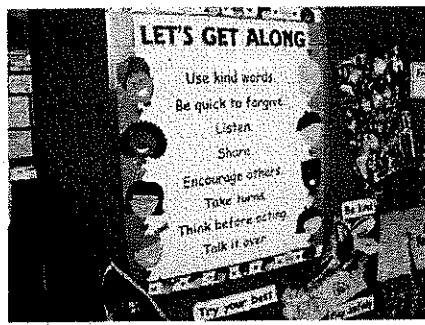
(2) 断る理由をいう(今、私も使っているので)

(3) 提案する(使い終わったら貸してあげるね)

11

R-12 School

オーストラリア・ニューサウスウェールズ州 2008/11月



12

2

コメント・ワーク①

ねえ、お母さん。
どうしておばあちゃん死んじゃったの。生き
てくれればいいのに…。

13

コメント・ワーク②

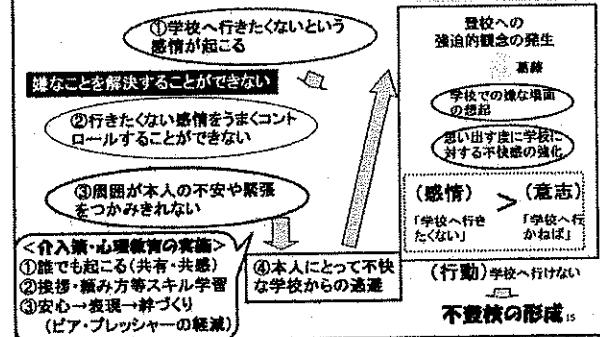
5月1日

今日ハイキングだったのに、朝のうち雨が降って
いたのでハイキングに行かれませんでした。おや
つもせっかく買ってきたのに行けなかつたので、
がっかりしました。楽しみにしていたのに、雨が
降つたので、もういやになりました。お母さんがせつ
かぐりゅックサックやごみを入れるふくろやタオルを
用意してくれたのに雨がふつたので、みんな、なお
さないとだめになりました。ほんとうにいやになりました。

14

学校忌避感情からくる不登校の発生機序

学校ストレッサー 学校で嫌なことが起こる



15

○赤ちゃんにお母さんが優しく接することで

お母さんは私の見方だ!
この人についていいんだ!
と感じ、愛情を肌で受け取る。

愛情を確信する

○問題行動を繰り返す子どもの口癖は?

どのような確信をもっているのか。
①どうせ親は、「自分のことを」と思っているに違いない
②いつも先生は、「」と思っているに違いない
③どうせ友だちは、「」と思っているに違いない

否定的な内的ワーキング・モデルを確信

肯定的な内的ワーキング・モデルを確信
<指摘・援助を行っていく際に必要なこと>
①内的ワーキング・モデルは、乳幼児期から青年期にかけて、愛着対象(親・先生・友だち)との相互の体験において、どのような回答が返ってきたかという体験の繰り返しによって構築される。
②内的ワーキング・モデルに最も強い影響を与えるのは、まず親や周囲の人々、教師や友人の「情緒的サポート」が影響する。

16

問題志向アプローチと 解決志向アプローチ

問題志向アプローチ 解決志向アプローチ

原因

問題

原因

解決志向ブリーフ・セラピー; Solution-focused brief therapy
(Peter DeJong & Insoo Kim Berg 1998)

17

解決志向アプローチ(SFA) の基本哲学

- ①もしも、上手くいっているなら、それを治そうとするな。
- ②もしも、一度でも上手くいったのなら、それをもっとせよ。
- ③もしも、上手くいっていないのなら、違うことをせよ。

(de Shazer,S 1987)

18

解決志向アプローチ(SFA) の活動姿勢

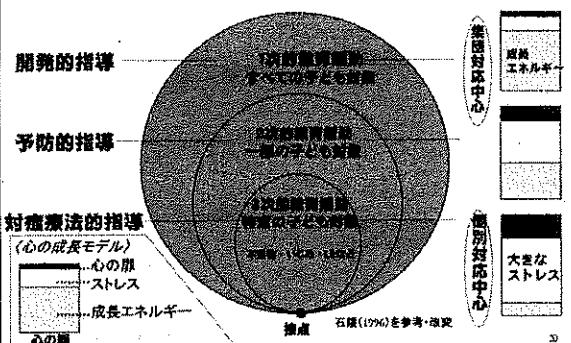
- 偶然うまくいったできごとを探してさらに実行する
- 実行可能な目標を立て、小さな変化を目指す
- 全体を通じて賞賛する
- どんなやりかたでも、結果的にその人が望むようになれば良い

(森・黒沢 2002)

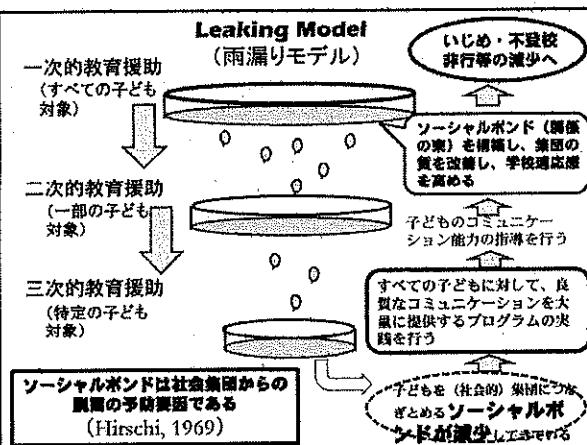
19

日本の学校教師の守備範囲の広さ

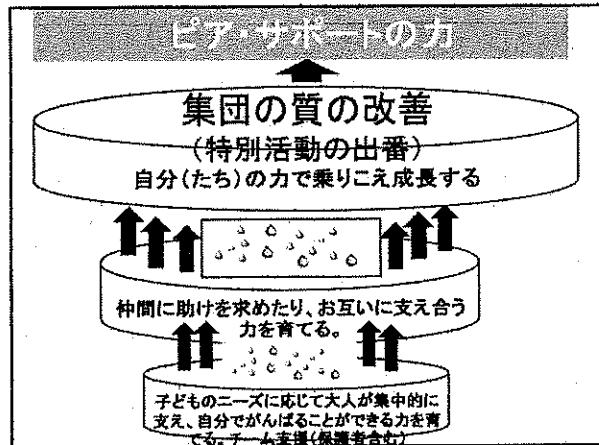
<学校現場は解決すべき「応用問題」の宝庫である>



20



21



22

学校適応感尺度(アセス)の質問項目(1)

- ◎生活適応感（生活全般に満足していると感じている）
- 気持ちがすっきりとしている
 - まあまあ、自分に満足している
 - 気持ちが楽である
 - 自分はのびのびと生きていると感じる
 - 生活がすごく楽しいと感じる

学校適応感因子（学園に対する不安が少なく、授業についていけていると感じている）

- 勉強のやり方がよくわからない
- 勉強の問題が難しいとすぐにあきらめてしまう
- 授業がよくわからないことが多い
- 勉強について行けないのではないかと不安になる
- 自分は勉強はまあまあできると思う

健康的な因子（友だちからいじめやからかいなどを受けていないと感じている）

- 友だちにからかわれたり、バカにされることがある
- 陰口を言われているような気がする
- 仲間に入れてもらえないことがある
- 友だちにいやなことをされることがある
- 友だちから無視されることがある

23

学校適応感尺度(アセス)の質問項目(2)

- 教師サポート因子（先生から適切なサポートを受けていると感じている）
- 担任の先生は私のことをわかってくれている
 - 担任の先生は、私のことを気にしてくれている
 - 担任の先生は信頼できる
 - 担任の先生は困ったときに助けてくれる
 - 担任の先生は私のいいところを認めてくれている

向社会的スキル因子（人に対して積極的に働きかけていると感じている）

- あいさつはみんなにしている
- 落ち込んでいる友だちがいたら、その人を元気づける自信がある
- 困っている人がいたら、進んで助けようと思う
- 友だちや先生にあつたら、自分から��拶をしている
- 相手の気持ちになって考えたり行動する

友人サポート因子（友だちから適切なサポートを受けていると感じている）

- いいなことがあったとき、友だちは慰めたり励ましたりしてくれる
- 「いいね」「すごいね」と言ってくれる友だちがいる
- 悩みを話せる友だちがいる
- 友だちは、わたしのことをわかってくれる
- 元気がないときは、友だちはすぐ気づいて、声をかけてくれる

24

ある中学校での取組み

学級活動指導案(別紙プリント)

- 1 対象学年 中学校3年A学級
- 2 題材「自分のことを話してみよう」
- 3 ねらい
進路に対して不安や悩みを抱いている仲間と共感できる場を設定し、受験への不安に伴って生じるプレッシャー、不安感、孤独感を共有し、心の癒やしを図る。

25



26

すてきなあいさつをしましよう

- 1 目をみて
(友だちの名前を呼んで)
- 2 すてきな笑顔で
- 3 聞こえる声で
- 4 はきはきと

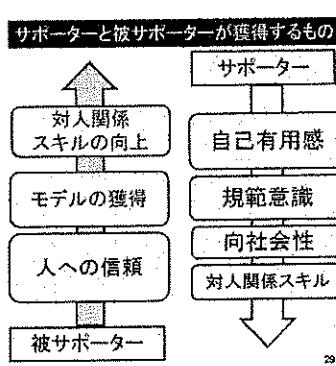
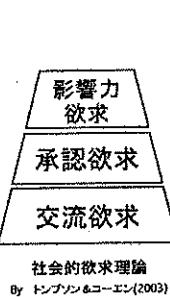


27



28

ピア・サポートと欲求充足



子どもの道徳性の発達段階とキーパーソン

Bull,N.J.(1977)

	道徳以前 (アノミー)	他律	社会律	自律
キーパーソン	自分 (本能)	親・教師	友だち	自分 (理性)
動機	自分の 快・苦	大人から の賞・罰	仲間から 与えられる 快・苦	自分自身 の理性的 判断
主な発達 形態(例)	~したい から~する (しない)	~に叱られ るから~す る(しない)	仲間はそれ にさせたくない から~する (しない)	自分がしてほ しいから他の どの人も~す る(しない)

30

小学校学習指導要領（特別活動の目標）

(平成29年告示、平成32年4月1日施行)

第1目標

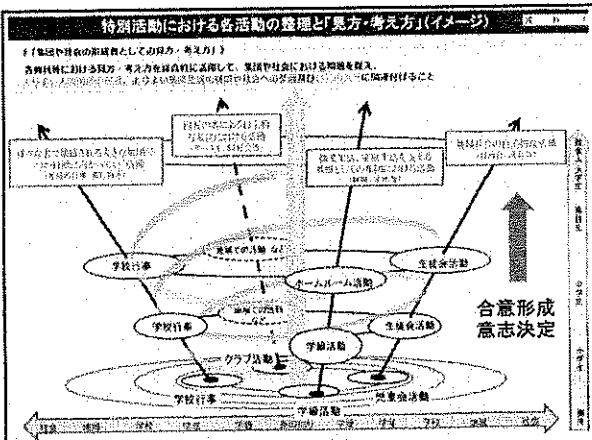
集団や社会の形成者としての見方・考え方を働きかせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

31

特別活動の目標つづき

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようとする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようとする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

32



33

(参考)『遊戯療法の8つの基本原則』

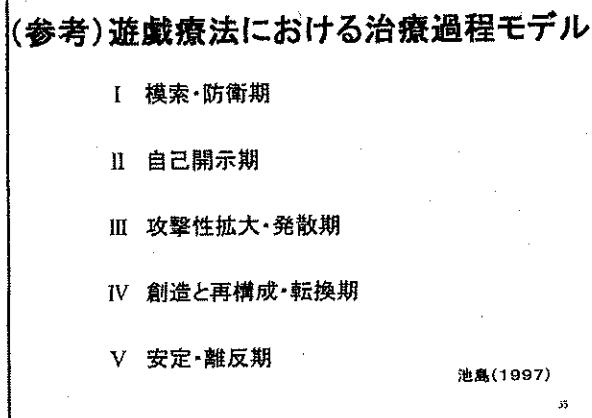
(V.M.Axline 1947)



(1911~1988)

- (1) 子どもとのよい治療関係を成立させる。
(Establishing rapport.)
- (2) 子どもの完全な受容を行う。
(Accepting the child completely.)
- (3) 許容的な雰囲気をつくる。
(Establishing a feeling of permissiveness.)
- (4) 適切な感情の認知と反射を行う。
(Recognition and reflection of feelings.)
- (5) 子どもに尊敬心を持ち続ける。
(Maintaining respect for the child.)
- (6) 治療は子どもが先導する。
(The child leads the way.)
- (7) 治療は緩慢な過程である。
(Therapy cannot be hurried.)
- (8) 必要な制限を加える。
(Limitations are necessary.)

34

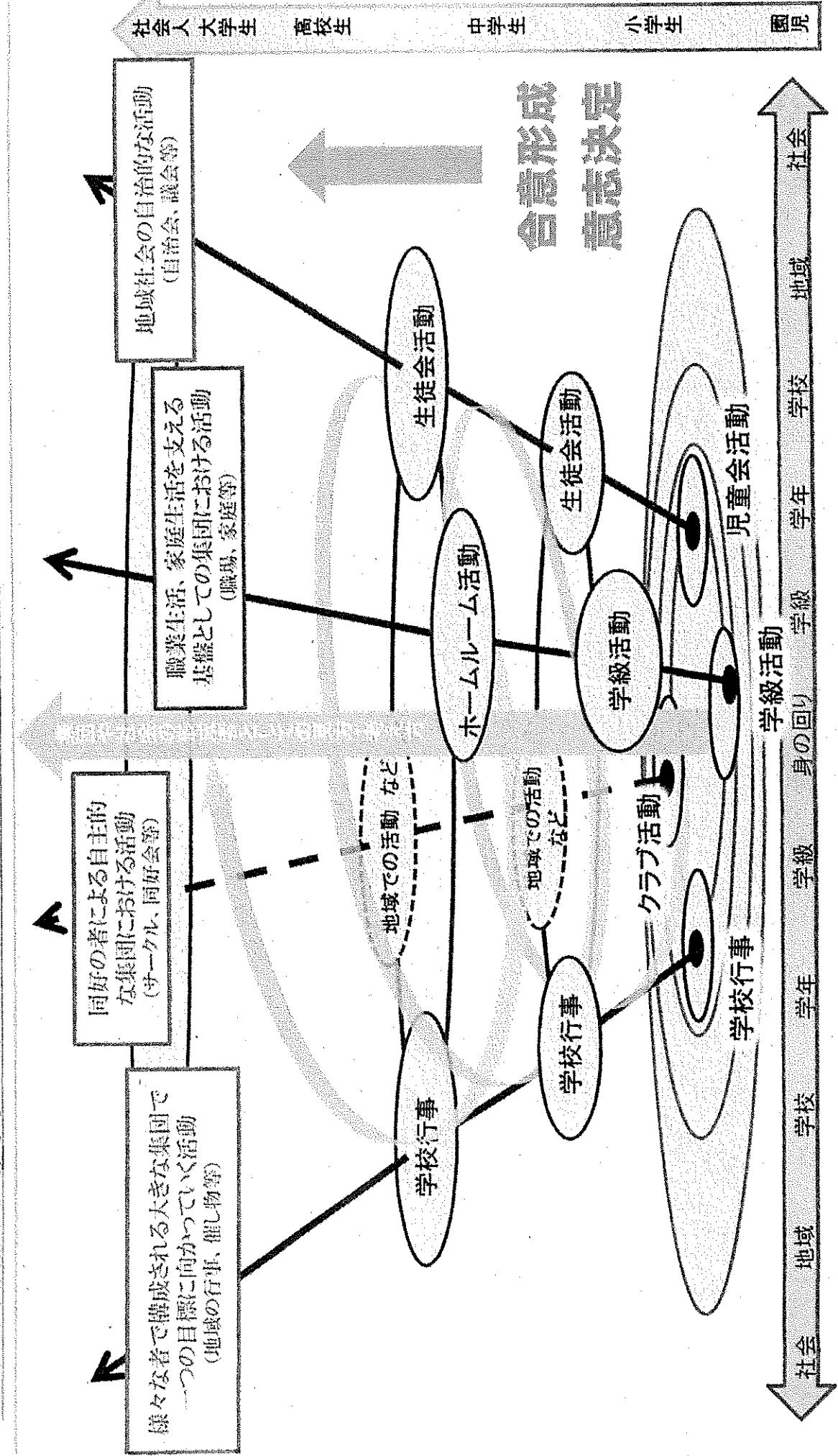


35

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」(イメージ)

《「集団や社会の形成者としての見方・考え方」》

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の環境に関連付けること



不登校の子どもの回復の過程とその対応の基本

<初期>

I 身体的懲罰の段階
(頭痛、腹痛などの身体症状を訴える)

初期対応のポイント(保護者・教職員)

登校

○ けたくとも行けない子たちの言葉に耳を傾け、「行きたい」と思ひを愛する。「どうなんることははたしたことない」「仮病」

中期対応のポイント(保護者・教職員)

- ① 登校意欲を手えたり干渉したりすることできただけ離れる。(あきらめず、粘り強く)
- ② テレビゲーム、漫画などにふけっている行動は、「行きたくても行けない」不安感をまぎらわしていることを理解する。
- ③ 人との接觸を避けた傾向があるため、本人の興味関心に寄り添って関係をつくり、余々に外の世界へと広げていく。
- ④ 専門機関の指導を受けながら対応していく。
(子どもの声)

II 不登校の合理化の段階
(行かないことをしつこく聞かれ、苦しみに、先生や友達が嫌などと学校に対する理由を挙げることが多い。)

IV 純粋・即ちこもりの時期の段階
(いろいろ詰めても本題は解決せず、悪化していく。保護者も子どもも絶望感を覚える。子どもは落ち着かず、生活も乱れ、困じもある。昼夜逆転も見られる。)

III 不安・動搖の段階
(保護者が子どもを責め、登校を強要すると子どもはますます不安定になり、落ち書きをなくす。家庭内暴力を起こしていることもあります。)

<中期>

Ⅳ 完全な回復の段階

(完全に不登校から脱した生活をするようになる。保護者も子どもも学校へ行けなくなるかもしれないといつもから解放される。)

VII 学校復帰の段階
(学期の始めや学校行事をきっかけにしして専門学校や学校のことに復帰する。)

VII 回復の段階
(一時と落ち書きを見せ始める。流れやすい生活へ戻る。床・食事などにつなげられが出てくる。)

VIII あきらめ・自己受容の段階
(絶望の時期を通り過ぎ、親が長い人生だと覚悟を決めてると、家庭内の緊張感が次第に取れてくる。好きなことに集中しながら、過去の自分を振り返り始める。)

後期対応のポイント(保護者・教職員)

- ①回復を信じて家庭の中で子どもを安定した生活が送れるように温かく見守る。
- ②具体的に登校することを想定し始めるので、その際に生じる出来事について一つ一つ親身になつて相談に応じていく。(学習進度を気にする、体力づくりを始めるなど)
- ③く教師員へ何時からでも登校できるように学校の受け入れ準備を整えておく。

昼夜逆転をしている子どもの気持ち <中3>
(夜になるとずっと自分の時間ができた。私には一人になれる時間が必要なのです。一人になれる時間を私は考えます。)

不登校である子どもの夢 <中2>

どのように援助したら登校できるかを親も教員も共に考え、何か方法があれば可能な限り子どもへの要望に応じ、しばらく様子を見る。
(保健室登校、保護者同伴登校、放課後登校などを提案してみるのもよい。)

不登校中の学生の子どもの声

聞かれて一語回答のは「どうして行きたくないの。何が嫌なの?」という質問です。それがわからないから困つてゐるのに、それに先生や親は、「それ!」を取り除けば、また元通りに行けるようになるんじゃないかなと考えています。

友達と遊んでいたら、いつの間にか教室の中にいること自らの体がどんどん小さくなったりと、自分のだけ勝ってきていた。友達がいないので探そうとしてペランダの方に行き、ガラス窓越しに外を見るなど、戯闘場が近くだと走したり、駆車が走り回つて笑ひ合いました。

不登校を克服した子どもの声ー父、母、先生にいたいこと
ともかく、自分の気持ちを分かつてもいいかった。少なくとも分かる力をしておしゃかつた。分かつてもらつたとき安心できたら、ほつとでました。それを支えにがんばることができるた...。

学校適応感尺度(アセス)の質問項目(1)

◎生活満足感 (生活全般に満足していると感じている)

- ①気持ちがすっきりとしている
- ②まあまあ、自分に満足している
- ③気持ちが楽である
- ④自分はのびのびと生きていると感じる
- ⑤生活がすごく楽しいと感じる

学習適応感因子 (学習に対する不安が少なく、授業についていけていると感じている)

- ①勉強のやり方がよくわからない
- ②勉強の問題が難しいとすぐにあきらめてしまう
- ③授業がよくわからないことが多い
- ④勉強について行けないのではないかと不安になる
- ⑤自分は勉強はまあまあできると思う

侵害的関係因子 (友だちからいじめやからかいなどを受けていないと感じている)

- ①友だちにからかわれたり、バカにされることがある
- ②陰口を言われているような気がする
- ③仲間に入れてもらえないことがある
- ④友だちにいやなことをされることがある
- ⑤友だちから無視されることがある

95

学校適応感尺度(アセス)の質問項目(2)

教師サポート因子 (先生から適切なサポートを受けていると感じている)

- ①担任の先生は私のことをわかってくれている
- ②担任の先生は、私のことを気にしてくれている
- ③担任の先生は信頼できる
- ④担任の先生は困ったときに助けてくれる
- ⑤担任の先生は私のいいところを認めてくれている

向社会的スキル因子 (人に対して積極的に働きかけていると感じている)

- ①あいさつはみんなにしている
- ②落ち込んでいる友だちがいたら、その人を元気づける自信がある
- ③困っている人がいたら、進んで助けようと思う
- ④友だちや先生にあったら、自分からあいさつをしている
- ⑤相手の気持ちになって考えたり行動する

友人サポート因子 (友だちから適切なサポートを受けていると感じている)

- ①いやなことがあったとき、友だちは慰めたり励ましたりしてくれる
- ②「いいね」「すごいね」と言ってくれる友だちがいる
- ③悩みを話せる友だちがいる
- ④友だちは、わたしのことをわかってくれる
- ⑤元気がないとき、友だちはすぐ気づいて、声をかけてくれる

96

学級活動指導案

1995年10月29日(火曜日)第5回時
1年1組 40名(男21名、女19名)
指導者 指導

3. おらい、自分の過ちはに対して不安や悩みを抱いている仲間と共感できる場を設け、受講への不安に伴って生じるプレッシャー、不安感、孤独感を共有し、心の盛りを図る。

4. 展開

活 動 内 容		援助の留意点
導入	二人組になって簡単なゲームをする。	・発達段階はばく。
2. 圈材について	<p>○学級の雰囲気としては明るく元気である。とてもにぎやかで、特に男子はひょうきん者、大騒ぎの好きな生徒が多く、笑いやあふがけ合うのが見えない学校である。しかし、一見いきねとしているように見えるが、堅いノリや冗談にすぐ流れで、きちんと指導を考えて行く姿勢のあまりない元気な生徒たちのベースで驚いているようなどころがある。女子は落ち着いて、しっかりと自分が見受けられるが、自己表現が苦手な生徒も多く見受けられる。不登校の生徒が4名、家庭的にしんどい状況の生徒も見られる。しかし、お互いの個性を認める柔軟さを持ち、とても嬉しい面を持ついる生徒がある。</p> <p>個別に見ていくと、学級全体がかなり低い生徒が多い。文部省が実施したSCT-9月度版でも、「生徒の成績が他の学級に比べても悪い」と評価した者が为人、「危険な」対象者は「低い」が70人と、成績や勉強に対する自己評価を与える生徒が多数を占める。</p> <p>連絡 特に自分は何をしたいのかわからぬ 16人 連絡 成績 出来ない 10人 はからぬ 12人 どのこの高校に行ったらいいのかわからぬ 12人 受験に失敗しないと不安 11人 やる気が出ない 8人 ある教科が苦手 4人 球との関係で悩む 4人 親知との関係で悩む 1人 眼の健康が心配 2人 その他のことについて悩む 5人 お金について悩む 4人 金子について悩む 1人 金子について悩む 1人</p>	<p>・相手に安心をさせせる。 ・相手に信頼をもつたせる。 ・自己開示を説得させる。 ・自己開示を保証させる。</p> <p>・相手の良いと惡いところを女性に述べる。相手の人柄をほめてもよい。 ・自己理解を説めさせる。 ・相手が自分の相手に伝える。 ・自己理解を説めさせる。</p> <p>・相手が他のエクササイズを前にして相手について見ついたこと、由じたことを家庭的に相手に伝える。 ・自己理解を説めさせる。</p> <p>・二三人組でカウンセラーや、クライエント役を決めて話し合う。 ・毎日使ってから何をしたか? ・相手評議してやうに感想を工夫する。 ・相手の様子を聞く。 ・金員でシェアリング。 ・金員でシェアリング。</p> <p>・上手な人に見てやまでもう。 ・上手な人に見てやまでもう。</p>
3. 選材:「自分のことを語りてみよう。」		
4. 活動		

○選材理由

この問題は、生徒達は進路決定を目前にひかえ、迷うているようだに思われるものの、上のSCTにも思われるよう

に、かなり不安を抱えている様子がうかがえる。しかも一人一人が各自不安を抱き合った場合に、誰

い話をしたり、すぐに盛り上がりたりして、始めさせているように見受けられる。そして世人とは距離を保ちながら

まずは外向感や孤独感を抱いていく時期のように思われる。

そこで本当に、自分が抱えている不安を出し合おう場を設定し、多様への不安に伴って生じる不安感や孤独

感を共有し、共感できる場を作ることによって、心理的な安定感、安心感を抱かせたい。そして自分を尊重して認められたいと希望する。けれど、もし自分が何を語らなくて済むならやめた方がいいと思

う死にそうなくらい、メッチャ気にしている。自分でみんなに思ってもらおうかなと思ったらいいと思

うけれどもかんたん。

なんかも思いつらうる程の所からでつかれているのです。ついでいうが、OO前段に行かって、それ見

たからあかんと見て自分の手に針を刺しても、針を刺したまま帰ってしまう。そのくせ、常に

ひつかかっている。迷んでるけど、並べない。迷んでいても金額減へでないので、勉強がんば

る。しゃべらないけど、迷ぶよんね。「しゃべらなければ、アホの子供はアホやから」

たら口ではいかへんかったけど、迷ぶよんね。しゃべらなければ、アホの子供はアホやから

つでないかった。父ちゃんが子供がやるが子供がやるがするな。お父

の悪いたじがたってあるやうう。つてお父さんと思はし大型だ。もう、父娘倣つて本当に似だ

うけたかんたん。

資料

<p>○選材理由</p> <p>この問題は、生徒達は進路決定を目前にひかえ、迷うているようだに思われるものの、上のSCTにも思われるよう</p> <p>に、かなり不安を抱えている様子がうかがえる。しかも一人一人が各自不安を抱き合った場合に、誰</p> <p>い話をしたり、すぐに盛り上がりたりして、始めさせているように見受けられる。そして世人とは距離を保ちながら</p> <p>まずは外向感や孤独感を抱いていく時期のように思われる。</p> <p>そこで本当に、自分が抱えている不安を出し合おう場を設定し、多様への不安に伴って生じる不安感や孤独</p> <p>感を共有し、共感できる場を作ることによって、心理的な安定感、安心感を抱かせたい。そして自分を尊重して認められたいと希望する。けれど、もし自分が何を語らなくて済むならやめた方がいいと思</p> <p>う死にそうなくらい、メッチャ気にしている。自分でみんなに思ってもらおうかなと思ったらいいと思</p> <p>うけれどもかんたん。</p> <p>なんかも思いつらうる程の所からでつかれているのです。ついでいうが、OO前段に行かって、それ見</p> <p>たからあかんと見て自分の手に針を刺しても、針を刺したまま帰ってしまう。そのくせ、常に</p> <p>ひつかかっている。迷んでるけど、並べない。迷んでいても金額減へでないので、勉強がんば</p> <p>る。しゃべらないけど、迷ぶよんね。「しゃべらなければ、アホの子供はアホやから」</p> <p>たら口ではいかへんかったけど、迷ぶよんね。しゃべらなければ、アホの子供はアホやから</p> <p>つでないかった。父ちゃんが子供がやるが子供がやるがするな。お父</p> <p>の悪いたじがたってあるやうう。つてお父さんと思はし大型だ。もう、父娘倣つて本当に似だ</p> <p>うけたかんたん。</p>	<p>○選材理由</p> <p>この問題は、イギリスのアーランド・バーリー校の卒業がいじめ問題に取り組む結果として、これまでやり入れられている。生徒自身がカウンセラーなど、友達の悩みを聞き合う活動である(日本連携新規 第9回)。学校カウンセラーや学校現場への導入など、日本でもカウンセリングの必要性が改めて認識される結果となりました。しかし、自分自身の方を選び、相手に自分の気持ちが受け入れられる結果を通して、肯定的な自己概念を持つことは、今日の教育にとって重要なねねばである。</p>
--	---

文政通志

- ① この要領をやってみてはどうでしたか。
どちらよかったです

+2	+1	0	-1	-2
1	1	1	1	1
18人	14人	4人	1人	0人

② 自分のことをどのくらいはなしができましたか。
十分話せた

$$\begin{pmatrix} 2 & -1 & 0 & -1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

① 体調不良の原因と対策

- どもよがつた +2 +1 0 1 -1 -2

18A 14A 4A 1A

(5) 今日晴三上鉄工所の事務室にて、前半生産量

- 一、报告的人：由上至下，由左至右，由近及远，由东至西。

卷之三

(七) 雜角不鏽鋼大鑄鐵瓦蓋(1/2) 諸君上圖一覽。

- OK

卷之二

卷之三

- A horizontal number line with tick marks at integer intervals. The labels are: +2, +1, 0, -1, -2.

卷之三

卷之三

- 卷之三

卷之三

卷之三

- 卷之三

卷之三

卷之三

- 的總經理官員們說：「走出去自己去！」

卷之三

（2）自身的風土文化、社會制度、生活習慣等是氣氛的來源。

- （註）此處所說之「新舊」，並非指新舊兩派，而是指新舊兩種學術。

二月廿二日，到達漢口。次日，由漢口乘船，沿長江而上，抵武昌。

國之三事，皆以爲非也。故曰：「子雲之賦，辭賦之最也。」

- 其心如以方城之山為山，則可以無憂矣。

自原初之謂之三才者，則以天地萬物爲體，而人爲用。故曰：「人爲天地之靈。」

⑦ 田舎の風景をうつす。田舎の風景をうつす。

- 人原人原不空也。必三一定。

卷之二